

雑賀崎 緑の小屋プロジェクト

プロジェクト構成員

田辺弘幸, 柏原誉, 門永琢, 金子美音, 金世峰, 高見
美由貴, 宝川悠一, 木村秀男, 新山奈緒, 吉村英智

指導教員

本多友常 (システム工学部)

【演習の背景・目的】

和歌山市雑賀崎に住民団体の人が使っている農作業小屋があります。しかし、老朽化し景観上も好ましくな
いため、景観に配慮しながら自分たちの手で建て替えることを目的としています。住民の人との話し合いや共
同作業によって、住民の方との交流を図るとともに、実際に建てるときの楽しさや難しさを学習します。



敷地

【演習の実施方法】

住民の方と打ち合わせをし、計画案を作成します。それを、模型や図面でプレゼンし、さらに話し合います。
それをまた計画案にフィードバックしながら、計画案をつくります。

そして、自分たちの手により作業します。まず、既存の農作業小屋を撤去し、それを使える木材とそうでな
いものに分別します。その後、基礎の作業、部材の作成等を、住民団体の中にいる元大工さんの指導を仰ぎな
がら、住民の方と共同で行ないます。そして、小屋を建設します。



打ち合わせ風景



模型写真

【演習の成果】

この活動の中で、私たちは学校の中では学べないさまざまなことを体験できました。どのように話し合いを
進めたらいいのか、どのように材料を発注したらよいか、どのように組み立てるのかなど、実際のプロジェ
クトで重要になってくる部分を学べました。また、元大工さんの指導のおかげで、少々の大工仕事ができるよ
うになり、また、伝統的な木造建築の工法や用語なども学ぶことができました。この活動のおかげで、設計す
るときに今まではあまり意識しなかった、構造や工法などを意識することができるようになり、思考の幅が増
したと思います。

現在、まだ小屋は完成しておらず、4月はじめの完成を目指し作業を続けています。



打ち合わせ



いくつも模型を作り検討



スケッチ

図面



10.5 既存小屋取り壊し



11.17 基礎取り壊し



12.15 水平を測る



12.22 基礎土作業



1.13 基礎型枠作業





1.19 基礎型枠作業



1.26 基礎コンクリート打設



3.2 型枠はずし



3.9 木材加工



3.16 土台据付



underconstruction...



3.25 木材加工(柱)

【今後の検討課題】

私たちは、住民の方と話し合いながら、計画してきました。その過程はすべて上手くいったとは言えないと思います。意見の食い違いや、住民の中の1人である元大工さんとの対立などもありました。しかし、そのような過程のなかで、さまざまなことを学び、また、計画としてもよりたくさんの思いの詰まったものになったと感じています。建築の設計において、さまざまなスタンスの取り方があると思います。今までは、基本的に建築家が考えて計画してきたと思います。住民や使い手の意見を聞いたとしても、建築家側で考えていました。今回は、住民と一緒に、考え自ら造ることを試みているわけですが、メリットもあればデメリットもあると思います。話し合いながら計画するのは、難しく大変手間がかかります。また、一緒に計画すると言っても、建築家(今回は学生だが)がコントロールする必要があります。そのときに、どのようにバランスをとる

のかが大変難しい。しかし、そのような過程を踏むことにより、住民との意思疎通や、それぞれの思いが入るという点でかなりの効果があります。

現在、まだ建設中でまだまだ作業は必要です。その中で、いろいろな意見が出てくることと思います。そのなかでさらにいろいろな思いが込められると思います。この貴重な経験を胸に、今後とも建築にかかわり続けようと思います。